MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN

春の中折

國産・舶來の優秀品取揃ひ

輕い春の帽子
ライトハット
¥ 8.80
送.47

自然の風格を生かす

春の外套

クレバネット コート
雨にも強い防水地。合外套として誰方にも向き、レインコート代りにも御召になれる。
¥ 41.50
送.30

サクソニー コート
バーベリの薄羅紗毛外套にみられる獨得の持ち味を備へた國産地、滋味豊かな色調も上々。
¥ 38.00
送.60

コットンポプリン

ワイシャツ

明快な縞柄と洒落た色無地及白
¥ 3.50
襟付 ¥ 4.50
送.27

京城府本町二丁目
丸善

MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN

重湯の素

ビオスメール

(見本説明書進呈)

重湯の榮養

重湯の素ビオスメールを牛乳粉乳に加へるとその榮養價を昂め赤ちやんの胃腸を調整し發育を増進せしめます

重湯はその調製に非常な時間と手數を要しますがビオスメールは斯の缺點を除くために、精製白米に胚芽ヴヰタミンと澱粉類を加へて低温焙煎的に乾燥させた調製便利なる重湯であります。湯を注げば何時でも滋養自由の重湯が得られます

K BM大

母乳のやうな

キノミール

(見本説明書進呈)
五〇〇瓦 二三〇瓦

粉乳の正しい選び方

母乳の代りに用ひられる粉乳類には砂糖の多量に加へられたものがありますが之等は醗酵性が强いため往々下痢消化不良の原因となります。粉乳を選ぶ際に特にこの點に注意することが必要であります。

キノミールは斯かる缺點を除くために、新鮮牛乳を原料とし之に麥芽糖を加へて容易に消化される滋養物を加へて調製されてあるため消化不良を起す心配もなく、消化吸收極めて良好で目立つて體重を増加する確かな特徴を有する優秀なる調製粉乳であります

株式會社 和光堂
東京市神田區 大阪市東區

濕布に

エキホス

感冒・肺炎

肋(腹)膜炎・中耳炎・扁桃腺炎

エキホスの貼布は最も合理的なる新療法にして總ての炎症性、疼痛性疾患に用ひて强力なる消炎、鎮痛、滲出液吸收の諸作用を營む。用法簡便にして一回の塗布よく長時間効力を持續す。

包裝 定價
一〇〇瓦 .五五
二五〇瓦 一.一〇
五〇〇瓦 一.九〇
二瓩 六.〇〇

藥効の完全を期するために
必ず嚴封包裝品の御購入を冀ふ

近時エキホスと稱しエキホス又はその類似品の大量包裝より適宜小鑵に容れて分賣する向有之哉に聞き及び申候處右者屢々陳舊又は吸濕せるため巴布劑の生命たる滲出液吸收性並に組織内滲透性を減弱し爲めに藥効の完全を期し難く候間御購入の際はエキホス製造元の特製包裝法による嚴封品と御指定の程奉願上候

結核性肋膜炎、腹膜炎、淋巴腺腫(瘰癧)等にはエキホス姉妹品たるグアヤコールエキホスの使用に依り効果一層顯著なり

信用ある藥店には必ずエキホスの備品あり

發賣元 株式會社 武田長兵衛商店
株式會社 塩野義商店
製造元 二巴合名會社 大阪市東區道修町

A-9199

昭和の常識

熱中症を消すには、一粒の仁丹を…

仁丹

映画や

観劇、すべて人混みの中では往々不快を招き易い
★
殊に、これから蒸し暑い苦しさを感じるに至つては
★
めまひ、頭痛で倒れる危險さへ伴つてくる、この豫防には
★
まづ仁丹で爽快にし蘇活作用を充分にすることです

◎一滴……爽快!!

ワルチユク

■白頭山特産■朝鮮みやげ■世界好評の■滋養飲料
■夏の保健に■御進物用に■戴いた人が■大喜びです

M1327

蟲下し

マクニン

のみ易く・よく效いて・害がない

蛔虫の症状は
食慾がへる ひもじい 腹いたは きけ げり べんぴ 顏が青い 鼻がかゆい だるい

一錠 二錠 大人 一日量 十錠
錠劑 .30 .75 1.35
ゼリ .20 .50 1.00 2.00

冊子「恐ろしい蛔虫」無代進呈

株式會社 藤澤友吉商店
大阪市東區道修町 東京市日本橋區本町

● 旅行! おつと待て

ノーシン

忘れちや大變だ●

M7

赤ちやんを一番よく肥らす

森永ミルク

獨特の低温濃縮

飲めば肥る
肥れば笑ふ
笑ふお顔に
春が來た

森永煉乳株式會社

朝鮮郵船定期仁川出帆

乘客貨物

東京行 (門司、大阪、名古屋、清水、横濱、東京) 興西丸 四月廿六日
阪神行 漢江丸 四月三十日
漢城丸 四月廿四日
九州行 (博多、長崎、鹿兒島、三角) 錦江丸 四月廿八日
天津行 新義州丸 四月廿五日
大連行 錦江丸 四月廿三日
會寧丸 四月廿七日
上海青島行 平安丸 四月廿二日
會寧丸 四月廿七日
釜山丸 四月廿八日
鎭南浦行 漢江丸 四月廿二日

近海郵船仁川出帆

大連、芝罘、高雄行 元明丸 四月廿六日

沿岸航路出帆

海州線 隔日 第一加羅丸
仙水線 毎日 第一朝運丸
唐津線 毎日 第二朝運丸
瑞山線 隔日 海龍丸
郡津線 月六回 注實丸
天東線 月六回 忠南丸

朝鮮運送株式會社 仁川支店回漕部
電話代表番號 一〇一〇番 岸八四番

大阪商船仁川出帆

阪神行
四月 日 神津丸
四月 日 [illegible]
四月廿四日 [illegible]

朝鮮汽船出帆廣告

一、釜山出帆
日本行(急行)毎日 午前十時 夜十二時 午後八時
日本行(急行)毎日 午前九時 午後七時
麗水行(急行)月廿回 午前九時 午後一時
濟州島行各港寄港毎日午後一時
麗水行(各港寄港) 八日 十七日 廿二日
大東丸 八日 十七日 廿二日 三日
釜山行(急行)(毎日) 午後十二時
(毎日) 午前九時

二、木浦出帆
濟州島行 毎日午後九時
釜山行各港寄港毎日午後五時

一、元山出帆
釜山行(急行) 月廿回夜午前二時

代理店 野口商會
仁川府海岸町
電話 一四、一七二番

○朝鮮鐵道局主要驛ニテ乘客並ニ乘船切符發賣所 貨物取扱
鐵道局連絡運輸取扱仕候
ジャパンツーリストビューロー京城三越支店案内所

阿波共同汽船仁川出帆

咸海衛、芝罘、大連線
第三共同丸 四月廿七日 午後入港
十六 四月廿九日 午前出港
奄美丸 四月廿五日 午後入港
早臨丸 四月廿四日 午前出港
第三豐丸 四月廿八日 午後入港
四月廿九日 午前出港
鎭南浦、大連、天津線 四月廿六日 午前出港

名古屋、京濱行 長勝丸 四月廿七日
四月 日 岡津丸
四月廿五日 江蘇丸
(名古屋止)
鎭南浦、安東行 豊洋丸 四月 日

内地各地行接續運ノ貨物取扱致候
大阪商船株式會社仁川代理店
株式會社 慶田組
電話 四二二番(出荷) 七二二番(入荷) 九八四番(荷主) 二一〇番 二七八番(現場)

昭和十三年四月二十五日（月曜日）
京城日報
第一萬九百三十九號（五）
若禿の好轉に
病的拔け毛に
フケ・かゆみに
三共 SANKYO
のヨウモトニック
最も批判力の鋭い專家並進歩的理容家も、ヨウモトニックだけは進んで愛用、御推奨して下さる唯一の正しい養毛料であります
各帝國大學病院常備藥
造血アウトホルモン
筋骨强化
補血强壯
ブルトーゼ
筋骨の薄弱は腺病質結核　貧血等に起因する全身的發育の不振を證するに他ならぬのであるが
造血アウトホルモン・ブルトーゼは唯一の血液造成素たる鐵プロタルビンの給源として造血機能亢進　血液新生の資源となり　筋骨構成の根元たる細胞原形質を賦活する一面各種の消化作用　同化作用　分泌作用の調整にも關與する
即ち　本劑は新陳代謝を旺盛にし　食慾の增進　榮養の充實　貧血性障礙の克服等全生活機能を活潑ならしめて虚弱体質の原因的改善に資し强靭なる体力　剛健なる筋骨の涵養に貢献するが故に厚生日本の体位向上に必須の國民的强壯劑として推奨せられ特に本劑の各種合劑は神經疾患　腺病質結核　胃腸疾患等に對しそれぞれ特殊の對症的治療能を確認されて居るのである
榮養不良　ブルトーゼ
神經衰弱　アルゼンブルトーゼ
腺病質　ヨードブルトーゼ
食慾不振　キナブルトーゼ
肺結核　グアヤコールブルトーゼ
安産强兒　ネオブルトーゼ錠
BLUTOSE
大阪市東區道修町
株式會社 藤澤友吉商店
東京市日本橋區本町
京城府西小門町

趣味と學藝

作家の感想一日集【1】

作家の教科書など

川端康成

長篇はやりである。前には七十枚とか百枚とか云ふと長い小説のうちにはいつたがこの節は二百枚三百枚と云ふのでないと長い小説と云はない

文藝雜誌など續々として長篇小説が出る。こま／＼としたものを並べるより、一つとかつと長篇を出した方が賣れさうである。作家の方も書下し長篇、新聞の連載長篇に色氣をもち出し、短篇小説の書き方を忘れてしまつたやうだ

長篇も結構である けれども短篇小説を捨てたものでは勿論ない。私も長篇小説を書いて來たし、今後も書き續けるつもりだが、短篇小説に[illegible]ない覺悟をもつてゐる。ちよつとした事を書いて急所をつく、短篇のよさは忘れてよいものではない

近々のうち琉球へ行くことになつてゐる。[illegible]首里城のある大きな島から小さな島へも行つてみたいと思つてゐる。全部の島へ行つても琉球列島は知れた數である

この旅行は[illegible]に書下し長篇として出す事になつてゐる『南海孤島』の舞臺を見に行くやうなものだ。『雪國』で私は北國の温泉場を書いた。今度は飛んで南海の島を物語の中にとり入れる事になつたのである

琉球には飯匙蛇が居て、家の中にもはいつて來るさうである。しかし私は蛇は何んでもない。今居る鎌倉の家の垣のところにも蛇の巣があり、椽の下にも大きい蛇が居る。夏になると蛇がうようよ出て來るが、まむしのやうなものでない限り私は少しもこはがらない。琉球にもハブのやうな毒蛇にめつたに町の中には出ないと云ふから先づ蛇の心配はいらない

事實をその通り書いて小説になつてゐれば名人の業であると思ふ。ありのままをその通り正直に寫して面白く讀ませたらそれは名作と云つて間違ひはない。事實をその通り書く寫實の藝も凡夫がおいそれと出來る業ではない。ましてそれが小説として立派なものになるところまで行つてゐるやうなものはさうざらにある譯はない

スケッチも却々馬鹿にならない。見た通りをスケッチするだけで、そのスケッチの仕方で中々面白いものが出來る例を、近頃『綴方教室』でみた

この本の中には、仕事のあまりないブリキ屋の一少女豊田正子がそのブリキ屋の家庭の出來事をスケッチした綴方が澤山はいつてゐるのだが、實にその家の中の出來ごとがよく書かれてゐる。居ながらにしてブリキ屋一家の[illegible]が手にとれるごとく出てゐる。尋常小學校の生徒の手になつたものとは思へないほど、ものごとが精確に寫し出されてゐる

小説としては原始的なものであり、安物の寫眞器でとつた寫眞と云ふ感じであるが、實によく寫つてゐるのである。ピントがかつきりあつてゐるのである。その少女は家の中の事をあらひざらひなんでも書いてゐるのだが書いてゐることがどんなものもその面影をその中にはつきり出してゐる

[illegible]たスケッチであゝ小説としては[illegible]なものだが、間違ひのないところ、正しい小説の初歩、出發點と云ふ氣がしたのである。この出發點から出發してまつすぐ成長したら大したものと云ふ氣がするのである。その少女は文章を書く事よりも、ものを見る目が優れてゐる。一寸志賀直哉の小説に似てゐるところがある。うんとほめて云へば作家の教科書にすると云へる「綴方讀本」である

新イタリーの翰林院總裁

フエデルツオーニ氏

熱血詩人ダヌンチオ逝いて空席となつたイタリー翰林院總裁の後任に誰が選ばれるかは注目の的となつて居たが、ムツソリーニ首相はこの程ファシスト大評議員で上院議長たる文學者ルイジ・フエデルツオーニ氏を翰林院新總裁に任命した、フエデルツオーニ氏は熱烈なファシスム讃美者でムツソリーニ首相とは熟知の間柄、一九二二年ムツソリーニ氏が初めて首相となるや同氏を殖民大臣に任じ以來政界に重きをなして來た。フエデルツオーニ氏は元來小説家ではあるが、從來何等翰林院會員でもなく、文士としては餘り有名ではない、ムツソリーニ首相が同氏を翰林院總裁の椅子に据ゑた理由については種々取沙汰されて居るが、結局政治家として卓越したフエデルツオーニ氏を通じ下院改革を行はしめる等の政治的意味があるものと見られて居る

朝日座に出た五九郎

藝達者の揃ひ

◇……大入滿員の客を見ると、やはりまだ演劇は大衆に迎へられてゐるといふことを證する。五九郎の演劇が古いか新しいかは問題として、その舞臺に於ける人氣は世評に定評がある。しかも旅に出てもなほ一生懸命な舞臺をつとめて、少しもその場限りの投げやりの態度の見えないところは買はねばならぬ

◇……初日に覗いて第一の『若い女と二人連れ』は見逃れたが第二の『富士壷』は居候を扱つた皮肉なもの、割に最後が持つて廻つたこしらへごとになつたことで居候になる一奴吹池良吉のが依然隨在なのは嬉しく、[illegible]といふよりも[illegible]な熱で捲つて行くのが目についた

◇……第三の『折られた牛の角』はこれこそ一座得意の涙の喜劇で、交通事故を起した自動車運轉手をめぐる悲劇、五九郎の牛方竹の助の巧まざる藝は[illegible]といふべく、こゝでは唯一の大川巡査と三五郎の運轉手が大きな[illegible]をして觀客が皆泣いてゐた

◇……第四『毛虫の妹』も人情物で悲劇二つ並べた位の方に損だが、毛虫のやうに嫌はれてゐる無頼の兄を改心させる妹が主題とし、木村光子の妹が大車輪。[illegible]

◇……第五『[illegible]』[illegible]が過ぎるが[illegible]にしてもこの位の喜劇は一度位見て置かないと[illegible]の皆券にかゝりはせぬか（ＯＡ生）

映畫ニュース

◇──日活多摩川、「坊ちやん」以下[illegible]『坊ちやん部隊』は其の[illegible]準備中の處此の程完了し[illegible]に、第一ステージに組まれた[illegible]の病直室、事務室、病室セツトより伊賀山正徳監督のカメラで開始した

◇──サミエル・ゴールドウヰンでは歐洲大戰で聯合軍の司令官として活躍したパーシング大將を映畫化すべく、パーシング家族と具體的交渉を行つて居たが、大將は目下病臥中であるが、ゴールドウヰン代表の秘書のチヨーチ・パイ氏が大將の意向を受けて、その自叙傳を執筆、ゴールドウヰン氏は米國陸軍省の應援を受け直ちに製作に着手する事になつたが、主演者パーシング大將に同大將の希望に依りゲリー・クーパーが扮演する事に決定

二つの洋畫

戀のみちぐさ

【コロムビア作品】

アデレイド・ヘイルブロン原作の大衆小説より『クレイグの妻』『虚栄の夜の夢』の名シナリオ・ライター、メリー・C・マツコールジニアが潤色し、名作『三角の月』『彼女は戀を要さない』『山小屋の一夜』等の都會情緒派の異才エリオツト・ヌーゼントが演出した痛快なコメディー、ドラマである。出演者は『暗黒街に死す』『三十九夜』『霧笛の[illegible]』のマデレイン・キャロルと、『原始人』『[illegible]伯爵』『或る雨の午後』で知られたチエツコ生れの名優フランシス・レデラーが主演し『つがれと[illegible]』の名三枚目スター、ミツシャ・オウアが共演する。──寫眞はマデレーヌ・キャロルとフランシス・レデラー（廿日から『キヤ[illegible]』と共に[illegible]）

再び戰場へ

【[illegible]作品】

[illegible]と共に[illegible]に挟[illegible]退屈の[illegible]かれ[illegible]た男をめぐる物語。[illegible]ブレア大佐は妻の顔色が勝れないのが心配になる許しブレア夫人の[illegible]心配以上に惡化してゐる。[illegible]手術不可能を宣告したが夫人は共に無用の心配をかけたくないので事實を秘してゐる大佐のお氣に入りの第一中隊長ワード大尉に令嬢ジョーンと婚約の間柄で[illegible]出發すれば結婚する手筈になつてゐるが、サマーセツトシヤー號乘組の看護婦アン・ヘリスンと相見て以來煩悶してゐる。取りすました貴族の令嬢よりも、純た人間味のあるアンに心を惹かれる。ブレア大佐にはレスリー・バンクス、ワード大尉にはセバスチアン・ショウ、夫人にはフロラ・ロブスン、アンにはベトリシヤ・ヒリヤードが扮してゐる──【寫眞はショウとヒリヤード】（廿五日より『女學生と兵隊さん』『維新の歌』と共に明治座上映）

不連續線

人形と人間

年をとると、宴會へ行つても若い妓には持てない。宴會へ行つても持てない位だから、そこら邊にゐる若い女などには、全然問題にされない。

問題にされたところで、どうしやうと言ふ譯ではないが、問題にされないといふことは、たしかに淋しいことであるに違ひない。

そんなこんなで、いつの頃からか、生きた人間に相手にされないよりも、生きてゐない人形を相手にすることを覺えた。

市松人形も買つた。フランス人形も集めた。

さうして、いろんな人形に興味を持つやうになつてからといふものは、むしろ趣味とも思はれる程に人間嫌ひになつてしまつたのだが、最近、あるデパートで新柄のセルか何かを着たマネキン人形を見たのが動機で、その人形の出來がよかつたばかりに、人形趣味はそのまゝに、また人間が好きになりかけて來たのである。

聞けば、あのマネキン人形といふやつは、一日に一圓五十錢か二圓で借りられるといふので、そこに獨身の氣安さから、一つ借りようと思つたのだが、デパートか何かでなければ貸すまいといふ話。

人間か人形か。老いたとまではいかぬが、中年の獨身者は辛い。

快男子 （6）

大島伯鶴演　今村恒美畫

雪子の顔

湖月堂の亭主に雕を打たれて、仁雄は初めて我に返つた。

仁『ヤッ亭主か、ウーム』

主人『亭主かもないもありませんよ、何を驚いてゐたんです』

仁『亭主、そこに俺どんの鑑札があるから、これを持つて行つて、カナリヤを三十羽買つて来てくれ』

主人『ヘエー、カナリヤをそんなに買つてどうするのです』

仁『毎日、飼つて、こゝから逃がすのです、ドラ猫も呼んで来い』

主人『エ、ダ、こゝから逃がす……』

仁雄の顔を不思議さうに見てゐた主人は、相恰を崩して吹き出した。

主人『アッハヽヽヽヽ、さては仁雄さん、閣下のお嬢さんをお見そめたね、市ケ谷小町と評判の美人、こゝは長谷部さんが、今はお住居にしてゐらつしやいますが、本當は別莊にお建てになつたので、野田の方が御本家ださうでございますが、何でも話を聞くのに、お嬢様は今年からこちらへ来て、女學校へ通つておゐでなさるのですが、どうです、市ケ谷小町、いくら女嫌ひの仁雄さんでも、あのお嬢さんを見たら、たまりますまい』

仁『馬鹿ーッ』

主人『ホイッ、又馬鹿か』

仁『何をいふ、俺どんは女子は嫌ひぢや』

主人『何のかんのッて、そんな負惜みをいふものぢやありませんね。あのお嬢さんが嫌ひだつたら、何もカナリヤを三十羽買つてこゝから逃がすの、ドラ猫を呼んで来いといふ譯がないぢやありませんか、三十羽あれば、毎日あのお嬢さんの、美しい顔が見られます』

仁『何をいふか、よく喋舌る奴だ、俺どんは女子は嫌ひぢや』

主人のいふ通り、仁雄は負惜みで、口では女は嫌ひだといつてゐるが、まァそれからは仁雄十九郎、寝ては夢、起きては現に、雪子の顔が目の先にちら付いて、流れる箸も御飯が咽喉へ通らぬといふ有様。身體は一日々々と窶れる一方で、湖月堂の内儀さんも心配して、

女『仁雄さん、あなた何ですよ、しつかりなさいよ、男ぢやありませぬか』

仁『ウーム……』

女『何をうなつてゐるんですよ、何をぼんやりしてゐるんです、そんなにお隣のお嬢さんのことを想つてゐらつしやるなら、男らしくお隣の旦那様に談判して、お嬢さんを奥さんに、お貰ひになつたらいゝぢやございませんか』

仁『うるさい、俺どんは女は嫌ひぢや』

女『またそんなことをいつてゐて、あなたは頑固ですね、他の女は嫌ひでも、お隣のお嬢さんは好きなんでせう、あなたのやうに、さうくよくよしてゐては、終ひにはお身體が悪くなりますよ、軍人さんらしくないぢやありませんか、當つて見て、いけないとして見たところで元々ぢやありませんか、お隣へお交際なさいよ』

仁『うるさいッ、貴様の顔を見ると、餘計心持が悪い、下へ行け』

女『ハイハイ、仕様がない人ですね』

これが恋わづらひといふのでせうか、豪放磊落な仁雄中尉、戀の道ばかりは別と見えまして、直接交渉をして見る気にもなれず、毎日ふさいで居りますけれども、勤務家ですから、一日として勤を休むやうなことはありませぬ。毎日市ケ谷の兵營に通勤して居りますが兵隊の顔を見ても雪子に見える、馬の面を見ても雪子に見える。喇叭の音も雪子の聲に聞える。

『あゝ雪子が何かいつてゐる』

明けても雪子、暮れても雪子。全く心を雪子に握はれて居ります。

と、或る日のこと、一つの事件が起りました。